

教科目名 工学実験 (Experiments in Mechanical Engineering)

学科名・学年 : 機械工学科 5 年 (教育プログラム 第 5 学年 科目)

単位数など : 必修 2 単位 (前期 2 コマ, 学習保証時間 39 時間)

担当教員 : 樋口理宏 菊川裕規 軽部 周 徳安達士

授業の概要			
本実験は、機械工学に関して、「機械力学」「流体機械」「材料力学」「自動制御」の 4 つの分野について、それぞれ 3 テーマの計 12 テーマの実験を行う。これらの実験によって、これまでに学習した理論および公式を実験により検証し、実験結果を報告書にまとめ工学的な考察、評価を行う力を養成する。			
達成目標と評価方法 大分高専目標 (D1) (D2), JABEE 目標 (d2b) (d2c) (d2d) (g) (h)			
(1) 機械工学の基礎になる学問の理論、公式を実験によって検証できる。(レポート)。 (2) グループ実験により協力して問題を解決させ、探究心を持つことができる。(レポート)。 (3) 問題を把握し、計画、実施、解決するまでの一連の流れで実験し、その意義について理解を深める。(レポート) (4) 実験報告書を正しく書くことができる。(レポート)。			
回	授業項目	内容	理解度の自己点検
1	1. オリエンテーション	個々の実験テーマごとに内容を説明し実験の概要を理解する。あわせて実験上の注意点および実験器具・装置類の取り扱いに関する安全対策を理解する。	【理解度の度合い】
2-4	2. 機械力学実験	対応する座学：機械力学 振動測定実験：振動系の自由振動波形を測定し、減衰比、固有振動数との関係を理解する。更に掃引実験から周波数応答曲線を求め、共振現象について理解する。 振動モード実験：はりを強制振動させたときの振動モードを実験的に理解する。また、共振振動数、モード節の位置が理論式により導出できることを理解する。 数値シミュレーション：コンピュータを用いて運動方程式から振動波形、周波数応答曲線を導出する。	【理解度の度合い】
5-7	3. 流体機械実験	対応する座学：水力学、流体機械 フランシス水車の性能試験：フランシス水車について出力・効率・流量の性能を評価できる。 キャピテーションの実験：キャピテーションを人為的に発生させ、キャピテーションが与える影響を理解できる。 軸流送風機性能試験：軸流送風機の性能試験方法を理解でき、性能評価および特性を理解できる。	【理解度の度合い】
8-10	4. 材料力学実験	対応する座学：材料力学 組合せ応力試験：曲げとねじりを受ける丸軸の主ひずみをひずみロゼットで測定し主応力を計算する。理論値と比較検証し測定法が正しいことを理解する。 はりの応力とたわみの測定：集中荷重を受けるはりに生じる応力とたわみを測定し、理論値と比較検証し測定法が正しいことを理解する。 応力集中と応力分布の測定：引張荷重を受ける円孔付き平板の応力集中係数を測定し、計算値との比較を行い、応力集中問題を理解する。	【理解度の度合い】
11-13	5. 自動制御実験	対応する座学：自動制御 周波数応答試験：回路の入力に正弦波を加えその周波数を変化させたときの C R 回路出力波形を観察し周波数と出力波形の関係を理解する。 角度計測：AD コンバータを利用したロータリポテンシオメータによる角度測定について理解する。 モータ制御：DC サーボモータについて、PD 制御による角度フィードバック制御を行う。ゲイン決定法について理解し、極の配置が制御系の安定性に与える影響について理解する。	【理解度の度合い】
履修上の注意	クラスを 10 人程度で構成する A ~ D の 4 つのグループに分け、プロジェクトで実施する。上記は A グループの学生の例である。		【総合達成度】
教科書	各実験は本学科で作成した実験の手引き (ガイドライン) に従って行う。		
参考図書	実践教育研究会編、「機械工学基礎実験」、工業調査会。		
関連科目	工学実験、校外実習、卒業研究、プロジェクト実験 (専攻科)、実務実習 (専攻科)、機械力学、水力学、流体機械、材料力学、自動制御		
総合評価	達成目標 (1) ~ (4) について、上記の 12 テーマそれぞれに対してレポートおよび取り組み状況で評価し、各担当者がレポートを 70%、取り組み状況を 30% として採点する。これら採点結果を 100 点満点で成績評価集計担当者がとりまとめ「(評価対象となる実験のテーマ数) / その実験回数」を求め、総合評価とする。総合評価が 60 点以上を合格とする。		【総合評価】 点